

発達障害と学習障害

辻山タカ子

発達障害

発達障害は一つの疾患名ではなく、いろいろな原因によって生ずる多くの発達障害を含めた一般的な用語である。その障害とは、脳性麻痺などの身体障害、精神発達遅滞などの知的障害及び行動に問題があるために生活に支障を来す行動障害など、いろいろな状態が考えられる。

広く考えれば、発達障害とはすべての障害を含むものとなるが、現在のところ、わが国ではまだ統一された定義は無い。

約 40 年ほど前に、アメリカで、「18 才以前の子ども達で、精神遅滞、脳性麻痺、てんかん、視覚障害、聴覚障害など、行政的に支援を要する子ども達を特定する」ために発達障害が取り上げられた、といわれている。その後、法の

改正、定義や支援内容の変化、拡大などと共に定義の中に自閉症、読字障害なども追加され、今日に至っている。

わが国では、1980 年頃、養護学校の設置義務化が進み、障害児たちに対する就学是非の検討が行われ、就学を必要としない症状の軽い子ども達に対し、「軽度の障害」という表現がなされた。



その後 2005 年に「発達障害者支援法」が制定され、「発達障害」とは「自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥／多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常、低年齢に於いて発現するものとして政令で定めるものをいう」と定義された。しかし、これは知的障害者支援がすでに整備されている行政側での捉え方であり、医療の側からは、知的障害、広汎性発達障害、注意欠陥／多動性障害、発達の部分的障害を有するものが、まとめて発達障害として考えられている。

分類・・・発達障害は軽度と重度に大別されるが、一般的には軽度の発達障害を示している。

軽度発達障害

- ① 高機能広汎性発達障害
 - 1) 高機能自閉症
 - 2) アスペルガー症候群
 - 3) 知能が正常の特定不能の広汎性発達障害
- ② 発達の部分的障害
 - 1) 学習障害
 - 2) 発達性言語障害
 - 3) 発達性協調性運動障害
- ③ 注意欠陥／多動性障害

軽度の発達障害は、夫々の障害の特性を有しながら、一般的に知的障害を伴わないため、健常か障害なのか判定しかねる場合が多い。2003年に文部科学省が行った調査では、「通常の学級に多く在籍すると考えられる学習障害、注意欠陥／多動症候群、高機能自閉症により学習や生活について特別な支援を必要とする児童、生徒が通常学級に6.3%いる」という事が判明し、それらの子ども達は、まとめて「軽度発達障害」とよばれるようになった。現在では、各学校で、6.3%の子ども達への適確な、急速な対応が急がれている。

「軽度発達障害」と診断づけられる子ども達は増加している。との報告が多く見られるが、その原因は未だ不明である。子育て環境が悪いためといわれていた自閉症が、先天的なものと判ったことは、罪悪感に責められていた母親達には朗報であった面もあるが、自閉症児本人には、辛い将来が示されたことになった。

軽度発達障害児(者)の増加は、夫々の疾患に対する一般の人々の認識が高まり、初期の段階で気づく人々が多くなったことや、受け入れる医療側でも、適確な診断が容易にできる様になったことなどが要因の一つと考えられる。夫々の疾患毎に対応が異なるが、何れにしても出来得る限り早期に治療(対応)を開始することが重要となるので、早期に疑問を持ち、速く専門医に相談することが早期発見、早期治療に繋がる。

しかし、問題は、これらの障害児は、長期間の治療、対応を要し、また、地域や国の支援、援助を必要とするが、現実にはそれらの対応、支援が行われてい

るか否かということである。専門医外来も少なく、診断後、長期に治療、対応できる医療機関も少ない。不確かな診断のもとに診断名のみ一人歩きしている傾向もあり、心配である。

専門医の増加、地域の支援、国の援助などが早急に十分に行われることが望まれる現状である。

学習障害

学習障害とは、知的な発達の遅れが無く、生育環境、教育環境にも全く問題がなく、本人も一生懸命努力しているにもかかわらず、学習の効果が上がらない状態をいう。

わが国では、文部科学省が「学習障害とは、全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、読む、計算する、また推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す、さまざまな状態を指すものである。その原因として中枢神経などに何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の要因となるものではない」と定義している。



症状

読字障害・・・読みの正確さと理解力が、生活年令、知能、教育程度に比べて著しく低いこと。行飛ばし読み、句読点で区切らない、脱字読み、内容理解困難など。

書字障害・・・書字能力の障害、書字の能力が、生活年令、知能、教育程度に比べて著しく低いこと。男子に多くみられる。鏡文字、脱字、耳で聞く情報処理が難しく、「わ」と「は」などを書き間違い易い。作文が出来ない。読みの障害はない。

算数障害・・・算数能力が、生活年令に比べて著しく低い。数字どうしの多い、少ないがわからない。指で計算する。繰り上がり、繰り下がりがわからないなど。読字、書字の障害はない。

診断

知的能力と特異的に障害されている能力との差が著しく大きい。

学業不振の目安としては、小学1年、2年、3年生は、1学年以上の遅れ、4年以上は2学年以上の遅れがあること。

他の疾患との鑑別、及び他の発達障害の合併の有無などの確認が必要である。

治療

治療薬はない。夫々の障害に応じて根気良く指導、反復訓練、辛抱強く学習を重ねることが重要である。

将来、書字障害はパソコンを、算数障害は計算機を使用するなど、

何らかの代替手段を積極的にとりいれて進めてゆくのも良い。

学習障害児は、知的水準が高いことから、怠け者として学校や家庭で叱られることが多いが、そのようなことのないように注意し、得意な部分を理解して学習を進め、不得意な部分はやさしく説明し、理解力の乏しさに根気強く対応することが必要である。



小児内科その他の論文を参考



プロフィール

辻山タカ子

1951年帝国女子医専卒

医学博士

国立第二病院で研修終了後、恩賜財団母子愛育会愛育病院(現愛育会総合母子保健センター)小児科で、母子保健と小児医療、及び慶應大学病院精神神経科で子どもの精神発達と小児精神病の医療に従事。その後、東京都北区の総合病院小児科医長として地域

の小児医療に専念し、70歳を機会にリタイヤする。現在はクリニックスマイル(24時間体制で患者に対応すると共に、ヨルダンの難民キャンプ支援、中国の砂漠に植林を進めている)での非常勤として外来を担当。また、日本保育協会内のママさん110番で育児相談及び各地での育児支援講座において、より良き保育援助者の養成に努めている。

著書 私の赤ちゃん(共著 婦人画報社)

園生活の119番 (共著 世界文化社)

幼児のための健康指導 (労働旬報社)

パパとママの3才までのしつけ (監修 成美堂出版)

赤ちゃん幼児の医学辞典 (監修 成美堂出版)

ライフステージの栄養学 (共著 朝倉書店)

小児栄養 (共著 朝倉書店)

絵本 からだのふしぎしりたいな (8巻シリーズⅠ・Ⅱ)

(監修学研)

－知的障害児（者）のアクアムーブメント指導プログラム－

【アプローチの原則】

- 1) シャワーを浴びている時から子どもの表情をチェックする。
- 2) プールに入る時は、心臓から一番遠い足先・手先の末梢から水を掛ける。
(手・足→顔を洗う→胸→顔を洗う→背中)
- 3) 子どもたち一人一人の生まれ持ったリズムを尊重した指導を行なう。
- 4) 強引に潜らせたり、泳がすのではなく、子どものパフォーマンスが発揮できる指導場面を作る。(必要であれば、教材教具をふるに使う)
- 5) 子どもたち一人一人の精神年齢にあった、段階的なプログラムを組む。
- 6) 指導時の姿勢は、垂直姿勢から徐々に、泳ぐ水平姿勢へともっていく。
- 7) 指導時は、目線を子どもの目線にあわせ、常に子どもの表情を確認する。
- 8) 快中心の指導を優先するが、時には不快となることも指導に組み入れて適応性を高めていく。
- 9) 泳ぎのスキルにおいては、徹底的に自由な垂直姿勢（歩く・走る等）の活動をとらせながら浮力作用の初歩段階を経験させ、自然に泳ぎのスキルにつながるようなムーブメント場面を作る。
- 10) 近代泳法4種目の指導にあたっては、まず、泳ぎを模倣させ“泳いでるつもり”子どもをその気にさせる。ある程度泳げるようになった段階で、本来の練習方法に戻して指導する。（全習法的練習から分習法的練習に）
- 11) 指導者は、先に進むことより、時には活動や練習をもとに戻す勇氣を持つことが大切である。

指導の流れ】

1) 水面上の場面

姿 勢：垂直姿勢

ねらい：身体意識の向上（自分自身の体を知り、使う）

2) 水面の場面

姿 勢：垂直姿勢（背の低い子）・しゃがんだ姿勢

ねらい：身体意識の向上（浮力を感じながら自分自身の体を知り、使う）

3) 水中の場面

姿 勢：水中に潜った姿勢

ねらい：身体意識の向上（無重力での自分自身の体を知り、使う）

4) 水面の場面

姿 勢：水平姿勢（泳法の基本姿勢、伏し浮き・背浮き）
 ねらい：泳ぎにつながる身体意識の向上（浮力・推進力の経験）

場 面	指導場面の流れの原則（場面・姿勢・内容）				
	①水面上	②水 面	③水 中	④水 面	⑤水 面
姿 勢	垂直姿勢 （立った姿勢）	垂直姿勢 （しゃがんだ姿勢）	垂直・水平 中間姿勢	水平姿勢	水平姿勢
内 容	①前歩き	②前歩き ③顔付前歩き	④ 潜 り	⑤伏し浮き	●クロール
	①後歩き	②後歩き ③上を見て後歩き		⑤背浮き	●平泳ぎ
	①横歩き （右・左）				●バタフライ
	①クロス歩き				●背泳ぎ

【知的障害児（自閉症児を中心に）の特性】

1. 人間関係を理解することの障害
2. 言語・認知機能の障害
3. 知覚（認知）機能の障害
4. 知的機能のアンバランス
5. 同一性の保持への強い欲求

《アクアムーブメント指導プログラムの在り方》

〈1〉指導のための提言

1. 個々の障害特性についてまず理解し、感覚・運動刺激の重要性について理解する。
2. 子供の発達心理を考慮し、特に、訓練主義（強引に泳がそうとすること）や局限状態（プールの中に児童を投げ入れるようなこと）の場面を作らな

い。

3. ラポート（信頼関係）形成の段階をあせらず行うこと。ラポートが成立しなければ、段階的な指導に進めないからである。したがってマンツーマン方式より指導を開始し、最初は徹底的な受容が必要である。
4. 言語スキルを高めるため、指導場面 に適応した語り掛けをこまめに行なう。



5. 快中心の指導を優先し、十分にラポートができあがった時期より次第に課題を入れ、時には不快となることも指導に組み入れ適応性を高めていく。
6. プール指導の効果は大変素晴らしいが、いろいろな形の働き掛けと家族・学校・その他あらゆる人たちの理解と協力が必要である。

〈2〉指導プログラムの編成ポイント

1. 第1ステージ（ラポート期）

※子どもの自由行動にともなった場面より、もっぱら快中心の受容と共感、身体接触を通した担当者との信頼関係をじっくりととれる指導場面を作る。

- ①身体接触を通したムーブメントの場面を作る。
- ②動作にともなった、最初からの語り掛けの指導を作る。（動作性言語）
- ③水際で遊べる様な場面を作る。
- ④シャワーを通しての遊びの場面を作る。

2. 第2ステージ（自然的課題期）

※水の中で、水平姿勢（泳ぎのスキル）は考えず、徹底的に自由な垂直姿勢（歩く・走る等）行動を取らせ、浮力作用の初歩段階を経験させる。

注：顔付け、潜り、伏し浮き等の泳ぎのスキル等を強制的にとらせることは危険である。自然に泳ぎのスキルにつながるようなムーブメント場面を作る。

- ①初歩的な簡単な創造遊び（クリエイティブ・ムーブメント）の場面を作る。
- ②身体意識能力の形成につながる遊びの場面を作る。
- ③水の中に顔を付ける指導の場面を作る。
- ④水の中に潜る指導の場面を作る。

- ⑤水中での身体接触の遊びの場面を作る。
- ⑥水面に浮く要素の遊びの場面を作る。
- ⑦基本的水泳技術（伏し浮き・背浮き）の習得をねらいとした指導場面を作る。

3. 第2ステージ（意図的課題期）

※担当者にも慣れ、いろいろな教材・教具にも興味を持てるようになった段階から、ある程度子どもにとって不快になることもプログラムに組み入れ、適性を高める場面を作る。（最初は好きな場面及び好きな教材・教具より入る）

- ①ある程度、限定した数のムーブメントに取り組ませる指導場面を作る。
- ②担当以外の指導者にも接触できるような指導場面を作る。
- ③時間・空間の概念の形成に結びつく指導場面を作る。
- ④集中維持機能を発揮できるような指導場面を作る。



4. 第3ステージ（第1統合期）

※最初の段階は、担当者と一緒にグループ指導を受け、慣れた段階で一人で参加させる。（情緒の不安定な時は元に戻して指導を行う）

- ①少人数グループでの指導場面を作る。
- ②ルールを守る指導場面を作る。

- ③課題意識の形成につながる指導場面を作る。
- ④泳法のスキルにつながる様な指導場面を作る。

5. 第4ステージ（第2統合期）

※生活年令にあった健常児との統合指導場面を作る。（健常児との指導場面においては、泳ぎのスキルの指導場면을多く取るのではなく、健常児と楽しく遊ぶ水中でのムーブメント場면을多く取ることが必要となる。）

- ①大グループでの指導場面を作る。
- ②挑戦的なムーブメント指導場面を作る。
- ③リーダーシップが取れる様な指導場面を作る。
- ④近代泳法4種目（クロール、バック、ブレスト、バタフライ）の修得につながる様なムーブメント指導場面を作る。

〈3〉年令に共通する指導のポイント

1. 方向性と空間意識を考慮した指導場面と確認
2. こだわり（同一性保持）を活用した指導場面と確認
3. “やってるつもり”の表現力の提供

《アクアムーブメント指導体制》

マンツーマン指導 _____ 小数グループ _____ 大グループ
(レポート形成)

荒井正人

NPO 法人楽しいスポーツを支援する会認定講師

NPO 法人 JAEA 副理事長

水中ムーブメント協会会長

日本ムーブメント教育協会認定専門指導員

日本特殊教育学会発表論文

水による自閉症児の実践経過

水による自閉症児のプログラムの在り方

水による脳性麻痺児の治療実践経過 等多数

主な著書

障害児のムーブメント教育・原理と指導の実際(フレーベル館)

実践障害児教育「特集；どんな子供でも泳げるようになる」(学研)

水泳ムーブメント(コレール社) 等多数

講演及び講師

日本言語学会「自閉症児の水泳指導と言語発達」

国立特殊総合研究所「水泳と言語発達」「長期研修生の水泳指導」

「病弱児の水泳指導」

「国際水泳医学会・コーチング会議・自閉症児の水泳指導」

かながわゆめ国体「国際スポーツ会議」

神奈川県立各養護学校「障害児の水泳指導の実際」 等多数



恒常性の維持（ホメオスタシス）

『健康とはどうゆう状態と思いますか？』と問われてあなたなら、どのように答えますか？

1. 病気にならないのが健康である
2. 元気で体力もあり、バリバリ働ける状態が健康である
3. ストレスが無く生き生きとしている状態



一言で答えるのは難しい質問ですが、上記のように答える方が大半ですね

生物がすべて持っている本能的な力で、病気に打ち克つ力や病気や傷を治す力を『**自然治癒力**』といいます。例えば、「ケガをしたら、かさぶたができ、

血を止め、傷が少しずつ消えていく」「日焼けして黒くなった肌が元の白い肌に戻っていく」「髪の毛や爪を切ってもまた伸びてくる」また「腐ったものや毒物を食べると吐いたりおなかを下して下痢になる」これも自然治癒力です。

「風邪を引いて熱が出たときに、汗をかいて熱を発散させる。」これも同じ力ですね。

発熱や下痢・嘔吐・頭痛は「病気を治そうとする」反応なのです。

この反応が好ましい生体反応といえます。

私たちが健康でいられるのは、この「**自然治癒力**」のおかげです





自然治癒力がスムーズに働く為には、体内の**恒常**

☆ホメオスタシス (homeostasis) …

ストレスになりうる外界の環境の変化に対して、生体を安定した恒常

的狀態に保とうとする仕組み。哺乳類の場合、神経・免疫・内分泌

(ホルモン) の相互作用によって維持されている。

性の維持 (ホメオスタシス) の働きが大切になります。

例えば、冬の寒い日は身震いをして体温を上げようとしたり、夏の暑い日は、汗をかいて体温を下げようとししますよね。

このように、私たちの体には、外部の環境変化に対して体の内部状態を一定に保っていかうとする調節の仕組みがあります。

体は変化と安定の間を常にゆらいでいます。ゆらぎの中で私たちの健康は保たれています。この調節を行うのが**自立神経**の活躍によるものです。

水が体によいと話はよく聞きますよね。水は常にゆらいでいます。また水温も体温より約5度以上冷たく、シャワーは暖かいですよね。この大きなゆさぶりが自律神経を鍛えるのに過大な影響を起こしているのです。

私たちの体、健康を考える上でこの**恒常性の維持 (ホメオスタシス)** の働きこそが重要なポイントとなっているのはご理解いただけたと思います。

■最近流行のデトックスって…



最近色々なメディアや雑誌に取り上げられている言葉『デトックス』知っていますか？

本来デトックスという言葉の意味は「**解毒・浄化**」。体にとって「毒」となるものを出し、人が元々もっている正常な身体の状態に戻ることです。

◆「毒」ってなんだろう？

身体にとって「毒」って何？

[1]有害ミネラル（水銀、鉛、カドミウム、砒素 etc）

[2]有害化学物質（PCB、ダイオキシン、ホルムアルデヒド etc）

[3]体内発生物質（アンモニア、メルカプタン etc）

だそうです

下記は日常生活に良く含まれる一部の紹介です

○大型魚をよく食べる→水銀、砒素

○タバコを吸う→カドミウム、鉛

○歯に金属の詰めものがある→水銀

○水道水をそのまま利用→鉛

○野菜をあまりとらない→排出低下

◆毒がたまるとどうなるの？

代謝をスムーズに働かせる酵素。その酵素と毒である有害ミネラルがくっついて代謝活動を邪魔します。それによって、肌荒れ、ニキビ、便秘、いらいら、頭痛やめまいなど体の不調へ変わっていくのです。何をしても飲んでも調子がよくななくて・・・もしかしたら体の中に毒がたまっているのかもしれない。そうです**恒常性の低下**です

◆ 毒は何から出て行くの？

1 位 便 75%

2 位 尿 20%

3 位 汗 3%

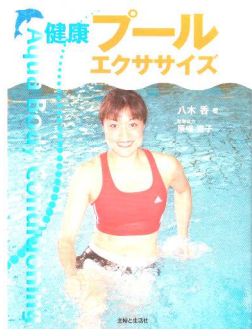
4 位 髪 爪 各 1%

汗は 3%なんです？サウナでデトックス？今までの苦労が…と嘆いている方も多いのでは？

◆ だからプールなんです

プールに入ると、お腹がすくし眠くなるし！！トイレにも行きたくなる！これ

って素敵なことでないですか？日ごろから便秘気味、疲れ気味でお悩みの方には是非アドバイスしてみて下さいね。皆さんの恒常性の向上！！プールで免疫力アップ！！



八木 香

NPO 法人楽しいスポーツを支援する会認定講師

NFSTAJAPANPDA アクア・ボディ・コンディショニング・
ディレクター

健康運動指導士

NPO 法人北海道水中運動協会理事

アクアパーソナルマスタートレーナー

日本ホリスティックコンディショニング協会 FC トレーナー

新刊案内

全国の書店にて好評発売中

健康 プールエクササイズ

八木 香著

原嶋寿子(指導協力)

アクアパワーで
らくらくシェイプアップ！

水の特性を最大限に生かした、新しい健康エクササイズの方法
「アクア・ボディ・コンディショニング」に基づいたエクササイズを
豊富な写真でわかりやすく紹介。シェイプアップはもちろん、簡単に
楽しささまざまな健康効果が期待できるエクササイズを紹介します。

プールに入るだけで7つの効果！

- 1 プールの水流による「マッサージ効果」
- 2 水の浮力で「関節を痛めない」
- 3 水温と体温の差で効率よく「脂肪が燃える」
- 4 自律神経が刺激され「免疫力がアップ」
- 5 水圧によって「酸素が全身に行き渡る」
- 6 「血液とリンパ液の流れがよくなる」
- 7 「ストレッチ効果で身体が柔軟になる」

水の特性を最大限に生かしたエクササイズで
その効果の高さを実感してください！



「正しい姿勢」をつくり
身体のバランスを整えます！

主婦と生活社発行
A5判 / 136 ページ
定価 1365 円 (税込)

八木講師の著書です。

原嶋会員も指導協力しています。

八木講師自らがプールに入って

大健闘！

分かりやすく、読んでいくと元気
の出る本です。

ラッコクラブの仲間たち

福島県郡山市

(その2)

阿部明子

郡山にまた今年も寒い冬がやってきます。ここのところ気温がぐっと下がってきているようですがみんな風邪もひかずにがんばっている様子です。



今回はSくんの様子の報告です。
S君は高校1年生です身体はあまり大きくなっていません。そしてとても痩せています。でも大きな澄んだ瞳で皆をいつも見ていますし、言葉もよく理解できているようすです。今まではほとんど身体が動かせないと思われていましたが九月の練習の

とき、彼の顔をきちっと見て話しをしてからトレーニングにはいりました。なんと私の話したことが受け止められて期待通りの動きが出来たのです。その内容をかいつまんでお話しします。「S君、水の中は浮力で身体が軽くなるから少しの力で動くことが出来るんだ。右肩を下げてみて。本当動いた！」みんな大きな拍手、「すごいぞ今度は左肩、いったぞ！」拍手、「足も動かそう、いいぞ！最高！」みんな沸き返りました。こんなすばらしいことがあるので水泳指導はやめられません。みんな嬉しい気持ちでその日の練習を終えることが出来ました。

今、ラッコクラブのトレーニングのためのプールを変えなければならなくなっていました。社会保険庁のプールが閉鎖されることになってしまい12月からほかのプールに移らなければなりません。保護者の方たちの大変な努力の結果、郡山市にある社会福祉専門学校のプールが借りられることになりました。感謝です！ プールの大きさ、深さ、によってみんなの動きが楽にできるように、練習内容も工夫しなければなりませんし、保温、着替えの場所、移動や補助の仕方も検討課題です。

でも沢山の強いみかたがいます、福島県内の若い水泳のインストラクターが

数人、福祉専門学校の学生さんたち、ラッコクラブ創立より続けていただいている郡山市民の方たち、養護学校の先生方、そしてやさしいご家族の方々に守られ、励まされて今後活動が続けられてゆくことを確信します。

ここ、郡山市は文化度の高いところです。音楽や演劇等に非常に理解があり、福祉にも力を入れているところだと思います。東北といっても穏やかな気候、気質です。これからのラッコクラブの活動が永く継続されることを心から願います。

阿部明子

NPO 法人楽しいスポーツを支援する会認定講師
東京 YMCA、毎日スポーツクラブ及び DOIT スポーツクラブにおいて 40 年の水泳指導経験。乳幼児・幼児・学童・一般成人・高齢者及び障害のある方々多方面での経験。ここ 20 年は障害のある方々や高齢者、乳幼児など、特別な仕様が要求される分野での指導に専念。また、(社)日本スイミングクラブ協会において全国のインストラクター、コーチ養成の任に当たっている。



資格：日本体育協会認定 A 級水泳教師

(社)日本スイミングクラブ協会 公認水泳教師認定専門科目講師

アクアフィットネスインストラクター養成専門科目講師

指導講師実績： 横浜市なずな会水泳指導

藤沢市あひるの会水泳指導

神奈川県立鎌倉養護学校教職研修会水泳指導

横浜市立盲学校水泳指導

福岡県郡山市ラッコクラブ水泳・水中運動指導

福島県いわき養護学校教職研修会水泳指導

平成 19 年度の生活介護事業所でら〜と

1. 自立支援法

平成 18 年 10 月自立支援法に基づいて、知的障害者通所更生施設定員 20 名から生活介護事業所でら〜と定員 25 名に移行して、約 1 年が過ぎた。でら〜とは利用者の障害が重く、事業所としては、支援単価がそれなりに評価され上がったため、事業収入増えたが、それ以上に職員の配置基準があがって、昨年度末までに多くの非常勤職員を採用することになった。利用者にとっては、職員が増えたことはとても喜ばしいことであるが、利用者負担金も自立支援法になって、大幅に上がったため、なかなか手放しでは喜べない状態である。国も利用者負担の軽減策など、行っているが、支援費制度が予算的な問題で破綻して、自立支援法を急場をしのぐ形で施行した感は否めない。



2. 「ささら」の増築

でら〜とで、大きい変化といえば昨年度末までに、定員が増えて利用者が増えたこともあり、これまでの施設が手狭になり富士市からの補助金



をいただき、増築をしました。増築の大きさは 82.08 m²で「ささら」という利用者が休む部屋と倉庫が増築されました。右の写真は竣工式の時の写真です。左の写真は完成した居室です。奥の扉は倉庫とロッカー室になっています。

3. B 型通園事業認可

増築合わせたように、開所から3年間申請し続けていた、重症心身障害児(者)のB型通園事業が認可されました。この事業は学齢前の児も利用が可能になったため、今年度は2名の学齢前の児も通えるようになりました。

4. プール活動(アクアムーブメントの発展)

平成18年度の1年間アクアムーブメントに取り組んで、平成19年度から毎週火曜日に療育グループとしてプール活動を取り入れることができた。一人の利用者が年間に参加できる回数は少ないが、利用者・保護者には喜ばれている。



その影響もあり、グループ旅行で熱海のマリンプールを選ぶグループも出てきて、保護者と一緒にプールで楽しんできた利用者も出てきている。(写真右は熱海マリンプールにて)



小林不二也

(こばやしふじや) 51歳

プロフィール

淑徳大学社会福祉学部卒

国立病院の中にある重症心身障害児(者)病棟の療育指導室長を経て、知的障害者通所更生施設で一と施設長になる。06/10/1生活介護事業に移行。